

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、名古屋工業生活協同組合（以下、「組合」という。）が取扱う個人情報について、個人情報の保護に関する法律（以下、「個人情報保護法」という。）等の法令を遵守し、個人の権利利益を適切に保護し、個人情報を利用し、安全に管理することを目的とする。

(用語の定義)

第2条 この規則において、各用語の定義は次のとおりとする。

(1) 個人情報

生存する個人に関する情報であつて、その情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述又は個人別につけられた番号、画像などにより特定の個人を識別することができるもの（その情報だけでは識別できなくても、他の情報と容易に照合することができるので、それによって特定の個人を識別できるものを含む。）をいう。

(2) 本人

個人情報によって識別される特定の個人をいう。

(3) 個人情報データベース等

個人情報を含む情報の集合物であつて、特定の個人情報についてコンピューターを用いて検索することができるように体系的に構成したもの、及び一定の規則に従つて整理することにより特定の個人情報を容易に検索することができるように体系的に構成した情報の集合物であつて、目次、索引その他検索を容易にするためのものを有するものをいう。

(4) 個人データ

個人情報データベース等を構成する個人情報をいう。

(5) 保有個人データ

組合が、開示、内容の訂正又は削除、利用の停止、消去及び第三者への提供の停止を行うことのできる権限をもつ個人データをいう。ただし、その存否が明らかになることによって公益その他の利益が害されるものとして個人情報の保護に関する法律施行令第3条が定めるもの、及び6ヵ月以内に消去することとなるものを除く。

(6) 役職員

役員、職員、契約職員、委託職員、パート職員、アルバイト、派遣職員、学生委員を含め、組合の業務に従事するすべての者をいう。

(適用範囲等)

第3条 この規則は、組合のすべての役職員に適用する。

2 組合が個人情報を取扱う業務を外部に委託する場合も、この規則の趣旨を遵守させるよう監督するものとする。

(個人情報保護方針の制定と公表)

第4条 組合は個人情報保護方針を定め、役職員に周知徹底するとともに、個人情報保護法第24条第1項を満たす事項とともに組合のウェブサイト公表する。

第2章 安全管理体制

(個人情報の安全管理体制の構築)

第5条 個人情報保護管理責任者は専務理事とし、個人情報保護及び安全管理の統括、実施状況の理事会への報告、個人情報保護管理者の指名を行うものとする。

2 個人情報保護管理者は、専務理事を補佐し、定期的に役職員に対する個人情報保護関連の教育等の実施、個人情報の適正な取扱いの確保、安全管理の点検、指導を行うものとする。

3 個人情報の保護及び安全管理の実施状況の内部監査は、専務理事が定めるところにより実施する。

4 専務理事は、内部監査結果にもとづき必要に応じて適切な是正措置を講じるものとし、内部監査及び是正の結果は理事会へ報告するものとする。

5 専務理事は、社会・経営環境の変化に応じて、個人情報を保護し、安全に管理するために、その個人情報保護の方針・規則等を見直すものとする。

(苦情・事故対応)

第6条 個人情報保護管理者は、個人情報の取扱いに関する苦情を適切かつ迅速に処理するよう努めるとともに、苦情全般に関する適切な対応に努めるものとする。

2 個人情報保護管理者は、個人情報の取扱いに関する重大な苦情事案については、遅滞なく専務理事に報告するものとする。

3 個人情報保護管理者は、個人情報に関する事故が発生した場合、適切かつ迅速に対応するものとする。

(役職員の義務)

第7条 役職員は、組合の業務に従事するにあたって法令及びこの規則をはじめとする組合の諸規則等を遵守し、専務理事又は個人情報保護管理者の指示に従って個人情報の保護及び安全管理に十分な注意を払うものとする。

2 役職員は、個人情報に関する事故（滅失、盗難、毀損又は漏えい等）、規則違反又はその可能性等に気づいた場合は、速やかに上司、専務理事又は個人情報保護管理者へ報告しなければならない。

3 前項の報告を受けた者は、この規則の趣旨を踏まえ、適切に対処するものとする。

第3章 個人情報の取得

(個人情報の取得)

第8条 組合は、あらかじめ利用目的を定め、その目的を達成するために必要な限度で、個人情報を取得する。

(適正な取得)

第9条 組合は、個人情報を適正な手段で取得するものとし、偽りその他不正な手段によって取得しない。

(取得にあたっての利用目的の通知等)

第10条 個人情報を取得するときは、あらかじめ利用目的をできる限り特定して公表するよう努めるものとし、取得前に公表しなかった場合は、取得後速やかにその利用目的を本人に通知し、又は公表する。ただし、個人情報保護法第18条第4項の場合を除く。

(本人から文書等により取得する場合)

第11条 前条の定めにかかわらず、申込書・契約書その他の書面（インターネット・電磁記録を含む。）等によって本人の個人情報を取得するときは、あらかじめその利用目的を本人に対し明示する。ただし個人情報保護法第18条第4項の場合を除く。

第4章 個人情報の利用と第三者提供の制限

(利用範囲)

第12条 組合は、あらかじめ本人の同意を得ないで、利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用しない。ただし、個人情報保護法第16条第3項の場合を除く。

(利用目的の変更)

第13条 利用目的を変更する場合は、変更前の利用目的と相当の関連性を有すると合理的に認められる範囲で行うものとする。

2 前項の変更をしたときは、変更後の利用目的を本人に通知し、又は2週間前までに公表する。ただし、個人情報保護法第18条第4項の場合を除く。

3 利用目的を第1項の範囲を超えて変更しようとするときは、あらかじめ本人の同意を得なければならない。

(第三者提供の制限)

第14条 組合は、あらかじめ本人の同意を得ないで、個人データを第三者に提供しない。ただし、個人情報保護法第23条の場合を除く。

第5章 個人データの安全管理

(役職員の監督等)

第15条 組合は、利用目的の達成に必要な範囲で、個人データを正確かつ最新の内容で保有するよう努めるものとする。

2 組合は、個人情報に関する事故を防止し、その他個人情報を安全に管理するために、必要かつ適切な措置を講じるものとする。

3 組合は、役職員が個人データを取扱うにあたって、個人データを適切に管理するため、必要かつ適切な監督を行う。

4 前項の監督は、各部門の長が行うものとする。

(委託先の選定)

第16条 組合は、個人データの取扱いの全部又は一部を組合以外の者に委託するときは、下記の書類の提出を求め選定するものとする。ただし、組合が提出を要しないと特に認めた書類についてはこの限りでない。

- (1) 個人情報保護方針（プライバシーポリシー）
 - (2) 従業員に対する個人情報保護の教育実施状況
 - (3) 個人情報の安全管理策の実施状況
 - (4) 再委託の状況
 - (5) 個人情報に関する事故の発生履歴（ない場合はない旨）
 - (6) 経営状況
- 2 前項の定めに関わらず、プライバシーマークを取得した者には、前項の書類の提出を求めることを要しない。
- 3 委託先は専務理事が決定する。

（委託先の監督）

第 17 条 組合は、原則として委託契約（付随する覚書等を含む。）において、個人データの安全管理について受託者が講ずべき措置を明らかにし、受託者に対する必要かつ適切な監督を行うものとする。

第 6 章 保有個人データの開示、訂正・追加・削除・利用停止

（保有個人データの利用目的の通知）

第 18 条 組合は、本人から、本人が識別される個人データの利用目的について問い合わせがあったときは、これを通知する。ただし、個人情報保護法第 24 条第 2 項ただし書きに定める場合を除く。

2 組合は利用目的を通知しない旨の決定をしたときは、その旨を本人に対し、遅滞なく通知する。

（保有個人データの開示、訂正等、利用停止等）

第 19 条 組合は、保有個人データについて、本人から開示を求められたときは、これに応じる。ただし、開示することによって次の各号に該当する場合には、その全部又は一部を開示しないこととする。

- (1) 人の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- (2) 組合の業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合
- (3) 法令に違反することとなる場合

2 保有個人データの内容が事実でないという理由で、本人から訂正、追加又は削除（以下、「訂正等」という。）を求められた場合は、利用目的の達成に必要な範囲において、遅滞なく調査を行い、その結果に基づき、これに応じる。

3 保有個人データに関し、本人から自己の情報に関して個人情報保護法に違反して取扱われているという理由により利用停止又は消去（以下「利用停止等」という。）を求められた場合で、その求めに理由があることが判明したときには、違反を是正するために必要な限度で、遅滞なく、これに応じる。ただし、多額の費用を要する等、その実施について困難である場合であって、本人の権利利益を保護するため必要なこれに代わるべき措置をとるときは、この限りでない。

4 前三項の求めに対して、開示しない旨の決定をしたときはその旨を、訂正等を行ったとき又は訂正等を行わない旨の決定をしたときはその旨（訂正等を行ったときは、その内容を含む。）を、利用停止等を行ったとき又は利用停止等を行わない旨の決定をしたときはその旨を、本人に対し、遅滞なく通知する。

5 前項の場合において、開示・訂正等・利用停止等を行わないことを決定したときは、その理由を説明するよう努めるものとする。

(保有個人データの開示等の請求の受付)

第 20 条 開示、訂正等及び利用停止等（以下「開示等」という。）は、本人から組合の担当窓口へ次の書類等が提出されたときに、対応する。

- (1) 本人であることを確認するための証明書類
- (2) 請求事項及び請求理由を記載した書面
- (3) 利用目的の通知（第 18 条）、開示の請求（第 19 条第 1 項）に係る事務処理手数料 1,000 円

2 組合は、開示等の請求の受付にあたって、請求者である本人に対して、対象となる保有個人データを特定するために必要な事項の提示を求めることができる。

3 組合は、本人に代えて代理人から開示等の請求があったときは、正当な代理人であることを確認のうえ、その請求を受付ける。

第 7 章 罰則その他

(罰則)

第 21 条 役職員がこの規則に違反した場合には、就業規則等の制裁に関する定めを適用する。

(規則の改廃)

第 22 条 この規則の改廃は、理事会の議決による。

(施行期日)

この規則は 2016 年 7 月 14 日より施行する。